

社会福祉法人サムス会 法人運営	
事業名	会務の運営 (1. 理事会 2. 評議員会 3. 監事会)
事業内容	<p>1. 理事会</p> <p>第1回理事会 (平成30年5月16日開催)</p> <p>第1号議案 平成29年度事業報告及び計算書類 (決算報告)</p> <p>第2号議案 平成29年度監事監査報告</p> <p>第2回理事会 (平成31年2月26日開催)</p> <p>第1号議案 平成30年度補正予算 (案)</p> <p>第2号議案 平成31年度事業計画 (案)</p> <p>第3号議案 平成31年度当初予算 (案)</p> <p>2. 評議員会</p> <p>第1回評議員会 (平成30年6月6日開催)</p> <p>第1号議案 平成29年度計算書類 (決算報告)</p> <p>第2号議案 平成29年度監事監査報告</p> <p>第2回評議員会 (平成31年3月7日開催)</p> <p>第1号議案 平成30年度補正予算 (案)</p> <p>第2号議案 平成31年度事業計画 (案)</p> <p>第3号議案 平成31年度当初予算 (案)</p> <p>3. 監事会・・・法人における監査機関として開催</p> <p>第1回監事会 (平成30年5月10日開催)</p> <p>平成29年度事業報告及び会計資産関係の監査</p>
事業名	法人運営会議
事業内容	<p>毎月の定例会の実施</p> <p>現場の課題問題点も含めた意思決定が、法人運営会議で決定できる。結果、集团的に意思決定が行われ、法人の運営体質を変える。</p> <p>第1回 (平成30年4月13日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会議報告内容変更 ・医療的ケアニーズの高い利用者受け入れ時の対応 ・喀痰吸引、経管栄養の実技評価 <p>第2回 (平成30年5月11日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士合格者・実務研修修了者の喀痰吸引等研修の実技評価 ・胃ろう造設者の受け入れ ・入居検討委員の交替 <p>第3回 (平成30年6月8日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の認定特定行為業務従事者の養成 ・胃ろう造設者の受け入れ ・胃ろう業務の応援 <p>第4回 (平成30年7月13日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師の求人 ・認定特定行為業務従事者による経管栄養業務で ・介護職員で可能な処置の移行

事業内容	<p>第5回（平成30年10月12日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員・看護職員の直接採用への切り替え ・ショートステイのロング利用者 ・医務会議 <p>第6回（平成30年11月9日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の能力評価票 ・喀痰吸引等実地研修講師の養成 ・昼礼 <p>第7回（平成30年12月14日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地指導結果通知 ・理事会・評議員会の日程 ・17：30以降の救急搬送の対応 <p>第8回（平成31年1月11日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケート ・特養看護師の他施設看護師との意見交換、交流会の実施 ・理事会、評議員会の準備 <p>第9回（平成31年2月7日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医務業務の変更 ・理事会、評議員会 ・利用者アンケート <p>第10回（平成31年3月8日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事会での指摘事項 ・人事考課、自己評価シート ・職員の直接採用を増やしていく方法
事業名	<p>1. 経営基盤の確立 2. 人材育成 3. 人事考課 4. 地域福祉活動</p>
	<p>平成30年度は、法人の基本理念である「利用者・家族・職員の笑顔があふれる施設」の実現を目指し、公益性と安定したサービスを提供するための経営基盤の強化のため、サービス部門ごとに現状分析を行い、課題、問題点を抽出、顕在化させ、収支バランスのとれた財政運営の構築に向けて、職員一丸となって無駄・無理・ムラのない業務効率の向上と歳出削減や加算取得、利用率向上等による収入増の対策、職員個々の能力及び意識向上を図る組織改革に取り掛かりました。</p> <p>1. 経営基盤の確立</p> <p>(1) 人件費率の適正化</p> <p>法人経営を圧迫する最大の要因である人件費率の適正化については、特養をはじめとする各事業の職員配置は、国の基準以上になっているものの、各業務量の均等化を図ることと併せて、職員の計画定数の見直しを継続しました。また、組織の枠を越えた相互の応援や一時派遣等の柔軟な態勢の構築に取り組みました。</p> <p>(2) 職員配置基準、組織の見直し</p> <p>特養、ショートステイについては、職員配置体制を2ユニット化を維持し、収支バランスに見合う適正化を継続。また、在宅療養の要でもある訪問看護事業の充実のため、看護師と作業療法士の職員を増員して事業の体制強化を図りました。</p> <p>(3) 利用率の向上等による増収対策の推進</p>

介護保険事業収入は収益の大宗であり、安定経営を持続するための増収対策としては、如何に利用率を向上させるかが鍵となるため、昨年度に引き続き、特養については稼働率97.5%維持のため、入居者の入院期間が長期化しない方策として介護と医療の更なる連携強化を図り、また、退去が発生した後の新規入居までの期間短縮を図る方策として組織内の迅速な報・連・相体制の強化を図りました。

ショートステイについては、稼働率90%維持のため、長期期間（ロングショート）利用者と通常利用のバランス及び特養空床利用により稼働率の向上を図りました。

デイサービスについては、収入の増加対策と支出（人件費率）の抑制対策を重点的に取り組みました。デイサービスの介護報酬改定は「自立支援」が本軸であり、それに伴う個別機能訓練加算やその他加算は安定的な収入に必要不可欠であり、稼働率アップと労働生産性を高める取り組みをすすめました。

平成30年度の稼働率は78.5%と平成29年度の71.4%から上がってきており、各居宅介護支援事業所からデイサービスの取り組み内容や成果を評価していただける事業展開を図りました。

訪問看護事業については、営業活動の強化し、法人内の各事業との連携より、情報共有・利用者の獲得につなげるようにしました。しかし、ケアマネジャーからの紹介件数が思うように伸びず、入院、入所、死去で利用中止となるケースもあり当初の計画通りの事業展開ができなかった。

居宅介護支援事業については、実務経験のあるケアマネジャーを1名採用し4名体制とし、特定事業所加算を算定できる事業所となり、担当利用者人数は当初計画に対して83%の達成率になりました。

2. 人材育成

(1) 専門性を高める研修の実施

施設の要である人材の育成強化である内部研修の全員参加と外部研修にも積極的に参加し、幅広い知識や柔軟な思考を培い、根拠に基づいた実践ができる人材育成を目指しました。

施設内研修（勉強会）

H30・4・23	接遇について	16名
4・27	看取り	27名
5・30	看取り	24名
5・28	食事について	16名
6・25	トランスファー	19名
8・29	カテーテル管理	15名
8・31	身体拘束	21名
9・28	嚥下と咀嚼	6名
10・29	口腔ケア	12名
11・10	サラヤ（感染）	22名
12・4	アンガーマネジメント	5名
2・27	身体拘束	8名

上記の勉強会を開催し、職員の知識向上・質の高い技術・深い洞察力を身に付け、より安心・安全な施設作りを目指した。昨年同様、業務の都合

上全員参加とは成らなかったものの、資料を配布し、委員会内での勉強会、またはユニット会議内での勉強会など、それぞれが工夫し知識とスキル向上を目指しました。

施設外研修

食品展示会/若年性認知症家族会/褥瘡・感染対策/新任職員研修 I /介護福祉士実習生指導者研修/キャリアパス対応生涯研修（チームリーダーコース）/喀痰吸引指導者養成研修/喀痰吸引 1 号 2 号/キューピーセミナー/若年性認知症支援/アンガーマネジメント/楽ワザ介護術 RX セミナー/若年性認知症支援者向け研修/給食施設管理者研修/ 円滑な職員間コミュニケーションについて/社会福祉士実習指導者講習/給食施設従事者講習/ハラスメント研修/誤嚥性肺炎ゼロ講習

施設外研修では、それぞれの研修案内が届き次第、必要に応じ参加職員を選定しました。

3. 人事考課

「業務のふりかえりシート」を元に、全職員へ、指導ではなく対話をする面接を実施し、適切な評価によって引き出された職員の能力に応じて職場の配置転換を実施しました。また、毎月 1 回の昼礼での法人理念の浸透実践し、法人と職員がともに成長し、プライドとやりがいの持てる組織風土作りに取り組みました。

4. 地域福祉活動

地域との連携は、ボランティアや地域の住民の協力を深め、開かれた施設を目指して、「健康長寿」を基本として、高齢者・シニア層と若者との世代間交流を通じて、共に支えあう「まちづくり（100 歳大学）」に取り組みました。さらに、設置母体が医療系の大学である強みを生かし、鈴鹿医療科学大学生のボランティアや、地域の一般ボランティアの受入や参加も活発になり、実習生の導入も定着してきており、各種実習を実施いたしました。

若年性認知症サロン「家族みまん。」の継承事業としてスタートした「桜の森カフェ」は、地域の人たちが気軽に集い、認知症の人や家族の悩みを共有し合いながら、専門職に相談もできる場所となるよう、カフェという自由な雰囲気の中、支える人と支えられる人という隔てをなくして、地域の人たちが自然に集まれる新しい場所です。桜の森白子ホームが、地域から愛される社会資源の一つとなってきました。

「ホリデー子ども広場」は、子育て中の父親、母親には好評で、参加者の子どもたちも毎回楽しみにしています。月によって参加人数に変動があるため、プログラムの設定が難しいことや、今後の更なる子育て支援活動にどうつなげていくかという課題に対しても取り組んでいくことになりました。

桜の森カフェ			
日	行事名	内容	参加者(人数)
5/13	交流会	おやつホットケーキ・ 薬膳茶を飲みながら お話をする。	7名
6/14	映画鑑賞会	映画「男はつらいよ」鑑賞。 甘酒プリン・薬膳茶提供。	17名
7/11	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義① 「嚥下評価とごっくん 体験」	嚥下状態の簡易評価ガイドを用い て嚥下評価を行う。ごっくん体験と して様々な食べ物・飲み物の試食を 行う。	14名
8/9	脳トレ	間違い探しや県名クイズ・ 黒ひげ危機一髪・積み上げゲームを 行う。	7名
9/2	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義② 「咀嚼・嚥下評価と試 食会」	嚥下テストを行い、嚥下状態に 合わせたおやつを選んで試食を する(嚥下に配慮したまんじゅう や食パン等)。	18名
10/10	介護保険について	介護保険についての情報提供を 行う。情報提供の必要ない方は カラオケ大会に参加して いただく。	16名
11/1	手芸	ダンボールを使用した編み物 を行う(コースター作り)。	9名
12/12	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義③ 「認知症予防の為のお 食事」	認知症予防効果があるとされる 食材を使用したおやつ(白玉だん ご)作りを行う。	8名
1/10	作品作り	習字・塗り絵等各々好きな作品 を作ってください。	5名
2/7	バレンタインチョコレ ート作り	生チョコレリュフを調理し喫食。 またラッピングも行いギフトとし て渡せるようにする。	11名
3/11	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義④ 「嚥下体操とおやつ作 り」	肥満の方・便秘の方向けのおやつ (りんごコンポート・バナナのヨー グルトかけ)作りをする。またマイ クを使用し嚥下能力の測定をする。 嚥下体操をしてから喫食。	11名

ホリデー子ども広場 参加者内訳表

日 時	対象者	ボランティア (学生)	ボランティア (一般)	職員
H30年4月30日	6	2	0	3
H30年5月5日	9	9	0	2
H30年7月16日	14	9	0	1
H30年8月11日	6	8	1	3
H30年9月17日	12	4	0	4
H30年10月8日	7	8	0	4
H30年11月3日	9	4	0	4
H30年12月24日	12	7	0	2
H31年1月14日	2	0	0	2
H31年2月 中止	0	0	0	0
H31年3月21日	9	4	0	4
延べ人数	86	55	1	29

実習生受入状況

鈴鹿医療科学大学看護学部 看護学科3年4年

全8クール 1クール5~6名

実習内容：老年看護学

H30年5月13日~24日, 5月28日~6月7日, 9月24日~10月4日

10月21日~11月1日, 11月4日~15日, 12月2日~13日

H31年1月14日~24日, 2月3日~14日

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 医療福祉学科1年23名

実習内容：高齢者交流

H30年7月12日

鈴鹿医療科学大学 学科混合1年 約600名

実習内容：医療人底力実践基礎1

H30年9月12日, 19日, 26日, 10月3日, 10日, 17日, 24日,

11月21日, 28日, 12月5日, 12日, 19日

鈴鹿医療科学大学薬学部 薬学科 約100名

実習内容：見学実習

H30年12月16日, 18日

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻3年
各2名

実習内容：臨地実習I 給食栄養理論

H30年2月18日~22日, 2月25日~3月1日

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法
学専攻3年 1名

実習内容：初期臨床実習

H30年2月18日~22日

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 鍼灸学科2年 各2名

実習内容：見学実習

H30年10月19日, 26日, 11月2日, 16日, 30日, 12月7日, 14日
21日

	鈴鹿医療科学大学看護学部 看護学科 3年 実習内容：老年在宅 H30年9月～3月 8クール 1クール2名
	鈴鹿医療科学大学看護学部 看護学科 実習内容：老年在宅 H30年9月～3月 計14名

社会福祉事業の運営	
事業名	介護老人福祉施設の運営
事業内容	<p>1. 特養部門の取り組み</p> <p>入居者80名が生活する中で、特養全職員は前年度と同様に本施設の基本理念である「利用者・家族・職員みんなの笑顔があふれる施設を目指します」～安心して、心豊かに過ごすことができ、みんなが利用したい施設～を念頭に置き、日々のケアにあたった。またユニットケアの特徴でもある家族と職員の関係・入居者と職員の関係・入居者同士の関係もできつつあり、ユニットそれぞれで色々なカラーがではじめた。また、職員一人ひとりの知識の向上、技術の習得にも力を入れ、毎月勉強会を行った。</p> <p>勉強会の内容も、介護技術的な内容だけでなく各委員会主催で専門的な勉強会の内容も取り入れて開催した。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の入居者ニーズを把握し、“その人らしさ”が続けられる支援と桜の森白子ホームで最後を迎えたいと入居者や家族が望めば看取りケアも実施していく。 2. 風通しの良い職場を目指し、良好なチームワークを構築していく。 3. ハードとソフトの両面から選ばれる施設を目指していく。 <p>【具体的取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的に行われるサービス担当者会議ではケアプランの見直しを行い、各専門職からのアドバイスや指導を受けた。介護の現場で必要不可欠な多職種連携を図り、全職員で入居者を見るという意識を持たせると共に、入居者・家族にとってより良い生活を支援出来るよう努めた。 2. 各ユニット会議・委員会会議を毎月開催し、議事録は誰でも確認できるように開示した。また、必要に応じて各専門職がユニット会議に参加しアドバイスをすることもある。 <p>その他に、統括主任・介護主任・介護副主任・フロアリーダーにて必要であると判断した場合、個人面談を行い職員の悩みや業務の相談を聞く時間を設けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 勉強会の講師役をフロアリーダー・サブリーダーにも任せ、それぞれの役割と更なる責任感を持たせることを取り入れた。 <p>機能訓練指導員の具体的取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別リハビリの実施 <p>入居者の主訴や身体機能に合わせて個別的なリハビリを実施し、疼痛軽減や日常生活動作能力の維持・向上を図る。同時に入居者の身体機能の評価・把握をする。また、リハビリをしながらコミュニケーションを積極的にとることで、ご本人の不安や楽しみ等の聞き取りを行い、リハビリに活かす。体調不良や入院加療による長期臥床をされていた方の、離床のタイミングを医務・介護と相談しながら実施していき、バイタルの変動に関しても問題ないか判断し最終的にはユニット主体の離床に移行させていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練計画の作成・ご家族への説明・管理 <p>上記個別リハビリにて入居者の身体状況や主訴等の把握を行い、3ヶ月</p> </p>

ごとに計画書の更新を行う。またご家族に直接説明し同意を得ることで、リハビリテーションに対する理解を得る。ご家族様からの希望も聞き取り、計画書へ反映させていく。

・生活リハビリテーションの作成・管理

毎日の生活の中で、簡単な運動の取り入れや自立性を促した日常生活動作を実施することで、運動習慣の確保及び身体機能の維持・向上を図る。入居者の身体機能の変化に応じて、生活リハビリの内容の再検討を行う。介護職員主体で声掛けや自立支援の介助を行っていただくことで、リハビリを身近なものとして関わっていただき、身体機能の把握や自立支援に対する理解を深めていただく。

・福祉用具の選定

入居者に合った車いすやクッション・靴等の選定を行い、日常生活を安楽に過ごして頂けるように努める。また、施設の物品として本当に必要な物であるかの選定・管理を行う。施設の物品（リクライニング型車椅子・クッション・三角クッション・L字柵）は、数にも限りがあるため本当に必要な方に使用して頂けるようその都度確認していく。

・介護職員への指導・相談業務

入居者の安全・安楽を意識した介助をすべての職員が行っていただけるよう、職員指導を実施する。また、職員の負担軽減を図れるような介助方法の検討を行っていく。他職種とのコミュニケーションを積極的に取ることでお互いに質問・相談しやすい環境を作り、実際の介助の中で困っている事（移乗やポジショニング、生活環境等）に対して解決につなげる。また個別リハビリに関しても、介助負担軽減を目指していただけるよう、実際の困り事の軽減に向け、リハビリの内容・頻度を検討していく。

・ポジショニング表の作成・指導

褥瘡・拘縮予防を図っていただけるよう、ポジショニング表の作成を行う。また、実際にユニット会議等の場で職員と一緒に説明しながらポジショニングを行うことで正しい方法を理解し、今後の介護に活かしていただけるよう努める。

・カンファレンスへの参加

身体状況やリハビリテーションの内容・経過を各専門職に伝えることで情報共有・目標の統一を図る。日常的には行っていないが、リハビリではこんなことが出来ているということを伝え、過介助の軽減を図る。

・PT 実習生の受け入れ・指導

鈴鹿医療科学大学理学療法学科の学生の実習の受け入れを行う。見学実習（5日間）の間に、特養の特色や理学療法士としての役割・理学療法士として入居者と関わることの楽しさを伝える。

最初の実習とのことで、3年4年のさらに専門的な実習に向け、利用者に協力していただき、コミュニケーションの取り方や学生同士の練習では感じることでできない評価や会話での情報収集のむずかしさを体感してもらおう。大きな実習に行く前に、自分の出来なさを理解し、残りの期間で学習すべき課題を確認し、今後の学生生活に活かしてもらおうことが目標。

・ショートステイからの相談（ポジショニング指導・機能訓練・福祉用具の選定）

ショートステイ利用者の身体状況の相談に乗り、ショートステイの利用

事業内容

者に関しても必要に応じて機能訓練を実施する。福祉用具の選定や職員へのポジショニング指導を行い、安楽に過ごして頂けるように努める。

・カラオケ余暇の実施

月に一回のカラオケ大会の実施を他のメンバーと協力し、実施する。入居者が楽しんでもらえるように配慮する。メンバーや気候次第では、散歩などに切り替えも行き、入居者が楽しんでいただける方法を考える。

・食事介助やトイレ誘導の実施

ユニット職員が不足している際の見守りや介助を実施し、入居者の安全への配慮を行う。

・身体拘束防止・事故防止委員会への参加

起きてしまった事故の内容をPTとして、どのようなことが原因として考えられるのか考察し、今後同じような事故が起きないように他職種と相談し対策を練る。

鍼灸治療サービスの取り組み

当施設における鍼灸サービスは一昨年 11 月に方針転換し、特養利用者主体から在宅部門（デイとショート）主体に切り替えられた。また昨年 1 月在宅の利用者の利便性から、鍼灸施術室を 3 階から 1 階に移動した。その結果、2016 年度は特養利用者 34 名・在宅利用者 3 名、2017 年度は特養利用者 28 名・在宅利用者 20 名であった鍼灸治療対象者が 2018 年度には特養利用者 22 名・在宅利用者 29 名になり、徐々に在宅部門の鍼灸治療希望者数が増加している（図 1）。以下 2018 年度の鍼灸治療実績等を報告する。

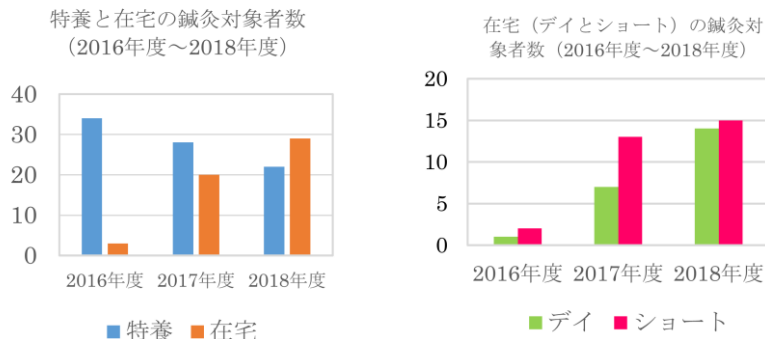


図 1：2016 年度～2018 年度において鍼灸治療対象者数

鍼灸治療の実績

2018 年度施術の総対象者

2018 年 4 月から 2019 年 3 月までの 1 年間で鍼灸治療対象者は継続中と途中新規実施者を合計して 51 名であった。その内訳は、デイサービス利用者 14 名（うち新規利用者 10 名）、ショートステイ 15 名（うち新規利用者 9 名）、既存特養の利用者 22 名（うち新規利用者 1 名）で、継続者が 35 名、新規利用者は 20 名（デイとショート両方を利用している方は 1 名があった為、実質では新規利用者 19 名）であった。これらの対象者に対し合計 890 回の鍼灸治療を行った。

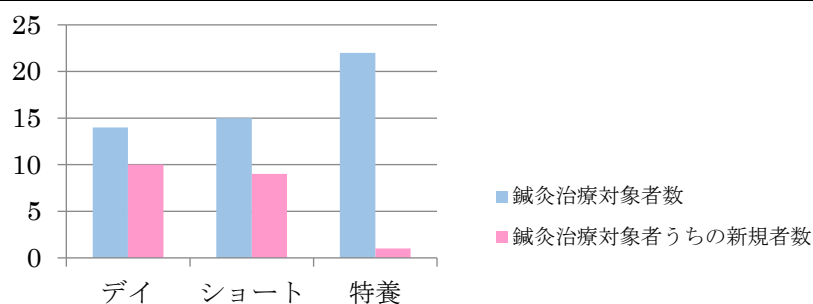


図2：施術総対象 51 名の内訳

対象者 51 名の要介護度及び対象疾患など

- ・ 男性 15 名、女性 32 名
- ・ 平均年齢 84 歳、平均要介護度 3.8（要支援 2 の方 6 名を除く）
- ・ 在宅（ショートステイ）から特養に入居後も灸灸治療を継続利用者 2 名
- ・ 対象者の主な疾患

疼痛（肩・腰・膝の痛み）及び慢性疾患（筋力低下など）、認知症を伴っているのが特徴

治療方法及び治療頻度など

- ・ 灸・灸・赤外線治療・マッサージ
- ・ 1～2 週間/回、30～45 分 / 回（実質治療時間）、4～5 人/日
- ・ 1 人あたりの治療回数：利用者ごとに異なり、最小 1 回、最大 49 回、平均 18 回
- ・ 毎回治療時家族が同席の利用者数：6 名（* ご家族の希望）

治療効果について

一般的な治療効果

灸灸治療によって、多くの利用者の主訴である疼痛は緩和された。また、下記のような顕著な症状改善の見られた例もあった。治療中に利用者とコミュニケーションをとることで、利用者が気持ちよく、穏やかな精神状態が得られていることが伺えた。

その他の活動

学会発表：認知症利用者への灸灸治療 ～鈴鹿医療科学大学グループ・桜の森白子ホームからの事例報告～、第 19 回日本認知症ケア学会大会, 新潟, 2018. 6

論文投稿：認知症利用者への灸灸治療 ～鈴鹿医療科学大学グループ・桜の森白子ホームからの事例報告～、認知症ケア事例ジャーナル（投稿中）（日本認知症ケア学会で発表した上の事例を座長からの推薦により論文にした。）

利用状況

入居者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
女	52	50	49	50	54	55
男	29	31	32	30	30	27
計	81	81	81	80	84	82
内、入院者	4	6	5	3	4	4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
女	53	53	50	53	55	55
男	28	28	27	28	26	24
計	81	81	77	81	81	79
内、入院者	5	8	6	8	6	2

入居者の要介護度状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護2	3	3	3	3	1	1
要介護3	15	16	16	17	19	20
要介護4	38	38	37	36	38	32
要介護5	25	24	25	24	25	28
平均	4.04	4.02	4.03	4.01	4.0	4.02

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護2	1	1	1	1	1	2
要介護3	20	20	18	20	20	21
要介護4	32	31	31	32	32	28
要介護5	27	28	26	27	27	27
平均	4.01	4.02	4.02	4.01	4.01	3.97

入退居の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	女	1	0	0	1	4	2
	男	1	2	1	1	1	0
	計	2	2	1	2	5	2
退居	女	1	2	0	0	1	2
	男	0	0	2	1	4	0
	計	1	2	2	1	5	2
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	女	0	1	0	1	2	0
	男	1	0	0	0	1	0
	計	1	1	0	1	3	0
退居	女	1	1	0	0	0	0
	男	0	0	0	2	2	0
	計	1	1	0	2	2	0

備考	《退居内訳》	《平均年齢》
	死亡 女4 男7 長期入院 女2 男3 他施設 女0 男0 家庭復帰 女0 男0 その他 女2 男1 合計 19名	84.9歳 男女別 女 87.0歳 男 80.3歳 《入居申込み者》 181人 内、待機者 34人 (平成31年3月31日現在)

開催年月日	行事名	行事内容
H30.4.4、4.6	お花見	桜の森公園へ散歩
H30.8.4	夏祭り	屋台。日常とは違う雰囲気を楽しんでいただく
H30.10.7	外調理	屋外で食事を楽しんでいただく
H30.11.8	お寿司レク	昼食時お寿司を提供する
H30.12.22	クリスマス会	学生ボランティアによるトーンチャイム演奏
H30.12.28	もちつき	地域交流室にてもちつき
H31.1.1~1.9	書初め	各ユニットにて書初め
H31.2.2	節分	豆まき
H31.3.1	ひなまつり	歌手石崎旭様による歌謡ショー

ボランティア受け入れ

開催年月日	行事名	
H30.4.4、4.6	お花見	外部ボランティア（7名）
H30.8.4	夏祭り	鈴鹿医療科学大学学生ボランティア（29名）
H30.9.5、9.6、 9.9、9.12~9.15	皿洗い	外部ボランティア（1名）
9.28	傾聴	外部ボランティア（1名）
H30.10.7	外調理	鈴鹿医療科学大学学生ボランティア（20名）
H30.12.22	クリスマス会	鈴鹿医療科学大学学生ボランティア（10名）
H31.3.1	ひなまつり	外部ボランティア（1名）
月1土曜日	傾聴・足浴・ベッド メイキング等	鈴鹿医療科学大学看護学生ボランティア （各日10名程）

社会福祉事業の運営																																				
事業名	短期入所生活介護（ショートステイ）の運営																																			
事業内容	<p>H30年5月にロングショートの利用枠を控え、リピーター率を増やし稼働を上げていくよう試みたが、稼働率・リピーターの確保が思うようにいかなかった為（H30年5月～11月平均稼働率86.8%）、H30年12月よりロングショートの利用枠を以前の対応に変更し、この時より特養の空床利用も稼働し（H30年12～H31年3月平均稼働率95.6%）、H30年度の平均稼働率90.1%となった。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅生活が長く続けられるよう、利用後も同じ生活状態にスムーズに戻れるために、利用者の個別化を重視したケアプランを作成・実施。 2. 困難ケースに対応できる専門性を養い、柔軟な対応。 3. リピーター利用者の獲得を目指し、稼働率向上。 <p>【具体的取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のニーズを十分に把握し、その人らしい暮らしが続けられるようなケアプランを作成し実践していき、自宅での生活スタイルを優先し、その上で、施設の機能を生かし、日常生活動作の維持向上に努めた。 2. 常に家族・利用者の立場になって、何をもって困難ケースといえるのかを徹底的に分析し、高い専門性を身につけ、あらゆるケースに果敢に対応した。 3. 職員は笑顔を絶やさず、おもてなしの精神で利用者・家族と向き合い入居期間中は安全を重視し誠心誠意で対応し、利用者・家族とは馴染みの関係を築けるよう努力することで、リピーター利用者を増やすことができた。 																																			
	短期入所生活介護事業（定員 20名）																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>営業日数</td> <td>30日</td> <td>31日</td> <td>30日</td> <td>31日</td> <td>31日</td> <td>30日</td> </tr> <tr> <td>利用実人数</td> <td>50人</td> <td>51人</td> <td>63人</td> <td>59人</td> <td>66人</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>利用延人数</td> <td>548人</td> <td>541人</td> <td>560人</td> <td>567人</td> <td>553人</td> <td>501人</td> </tr> <tr> <td>1日平均</td> <td>18.2人</td> <td>17.4人</td> <td>18.6人</td> <td>18.2人</td> <td>17.8人</td> <td>16.7人</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	営業日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	利用実人数	50人	51人	63人	59人	66人	60人	利用延人数	548人	541人	560人	567人	553人	501人	1日平均	18.2人	17.4人	18.6人	18.2人	17.8人	16.7人
		4月	5月	6月	7月	8月	9月																													
	営業日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日																													
	利用実人数	50人	51人	63人	59人	66人	60人																													
	利用延人数	548人	541人	560人	567人	553人	501人																													
	1日平均	18.2人	17.4人	18.6人	18.2人	17.8人	16.7人																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>営業日数</td> <td>31日</td> <td>30日</td> <td>31日</td> <td>31日</td> <td>28日</td> <td>31日</td> </tr> <tr> <td>利用実人数</td> <td>67人</td> <td>61人</td> <td>68人</td> <td>62人</td> <td>62人</td> <td>65人</td> </tr> <tr> <td>利用延人数</td> <td>530人</td> <td>467人</td> <td>606人</td> <td>555人</td> <td>555人</td> <td>598人</td> </tr> <tr> <td>1日平均</td> <td>17.0人</td> <td>15.5人</td> <td>19.5人</td> <td>17.9人</td> <td>19.8人</td> <td>19.2人</td> </tr> </tbody> </table>		10月	11月	12月	1月	2月	3月	営業日数	31日	30日	31日	31日	28日	31日	利用実人数	67人	61人	68人	62人	62人	65人	利用延人数	530人	467人	606人	555人	555人	598人	1日平均	17.0人	15.5人	19.5人	17.9人	19.8人	19.2人
		10月	11月	12月	1月	2月	3月																													
営業日数	31日	30日	31日	31日	28日	31日																														
利用実人数	67人	61人	68人	62人	62人	65人																														
利用延人数	530人	467人	606人	555人	555人	598人																														
1日平均	17.0人	15.5人	19.5人	17.9人	19.8人	19.2人																														
行事開催状況																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催年月日</th> <th>行事名</th> <th>行事内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30.4月</td> <td>花見</td> <td>桜の森公園で桜を見る</td> </tr> <tr> <td>8月・9月</td> <td>夏祭り 外出行事</td> <td>各ユニット出し物を行う。 買い物・喫茶店</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>外調理</td> <td>屋外で食事</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>クリスマス会 餅つき</td> <td>学生ボランティアによるトーンチャイム演奏 地域交流室で餅つき</td> </tr> </tbody> </table>	開催年月日	行事名	行事内容	H30.4月	花見	桜の森公園で桜を見る	8月・9月	夏祭り 外出行事	各ユニット出し物を行う。 買い物・喫茶店	10月	外調理	屋外で食事	12月	クリスマス会 餅つき	学生ボランティアによるトーンチャイム演奏 地域交流室で餅つき																					
開催年月日	行事名	行事内容																																		
H30.4月	花見	桜の森公園で桜を見る																																		
8月・9月	夏祭り 外出行事	各ユニット出し物を行う。 買い物・喫茶店																																		
10月	外調理	屋外で食事																																		
12月	クリスマス会 餅つき	学生ボランティアによるトーンチャイム演奏 地域交流室で餅つき																																		

	H31.1月	書初め	ユニットで書初めをする。
	2月	節分	鬼に紙ボールを投げる
	3月	ひな祭り	地域交流室で外部の方コンサート
社会福祉事業の運営			
事業名	通所介護（デイサービス）の運営		
事業内容	<p>平成30年度のデイサービスにおける介護報酬改定については、利用者の自立支援につながるサービスを積極的に評価していく意思を明確にし、事業に対するインセンティブ付与のため、アウトカムなどに応じたメリハリ付けを行い、また、エビデンスを重視する「科学的介護」を中期的に実現していく構想も改めて提示し、「介護保険の理念である自立支援・重度化防止をより一層図っていくこと」を重点に事業展開した。</p> <p>さらに、デイサービスの経営を安定的に行っていくためには、介護報酬改定や経営指標（人件費率や稼働率）等を正しく判断し経営戦略を立てた。</p> <p>デイサービスの介護報酬改定は「自立支援」が本軸であり、それに伴う個別機能訓練加算やその他加算は安定的な収入に必要不可欠だ。</p> <p>デイサービスを安定的に経営するためには稼働率アップが絶対条件であり、そのために労働生産性を高め人員配置の適正化をすすめた。</p> <p>平成30年度の稼働率は78.5%と平成29年度の71.4%から上がってきており、各居宅介護支援事業所からデイサービスの取り組み内容や成果を評価していただけているからと考える。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう複数メニューから選択できるプログラムの実施 2. 身体機能の向上を目指すことを中心に機能訓練（身体機能、疾病、疾病予防に対するプログラム）の実施 3. 個別機能訓練加算に加えて中重度ケア加算、認知症加算など各種加算を取得できる体制づくり 4. 適正な人員配置による人件費率コントロール 5. 稼働率向上を目指した営業 <p>【具体的取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立支援・重度化防止が本軸にあり、個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱの取得から、ひとりひとりに合わせたより具体的な目標の設定と訓練を行い、自立支援に向けて意欲的になる取り組みを行った。 2. 栄養改善について管理栄養士以外の介護職員などでも実施可能な栄養スクリーニングを行った。 3. サービス提供時間の実態を踏まえ、サービス提供時間区分を1時間ごとに細分化できた。 4. 労働生産性を高め人員配置を適正化した。 5. デイサービスの稼働率アップはデイサービスを黒字運営する上での絶対条件であるため、稼働率を最低でも85.5%まで上げ、維持する計画に対して78.5%であった。 6. デイサービスの人件費率（人件費割合）は、介護事業収益に対する人件費割合は平均55.8%となっており（介護事業経営実態調査、平成26年）、60%台を目指したが、77.8%となった。 		

事業内容

通所介護事業（定員 25名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延人数	441	513	524	520	527	472
1日平均	17.6	19	20.2	20	19.5	19.7
稼働率	70.6	76	80.6	80	78.1	78.7

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用延人数	535	500	488	465	478	569
1日平均	19.8	19.2	19.5	19.4	19.9	21.9
稼働率	79.3	76.9	78.1	77.5	79.7	87.5

公益事業の運営																								
事業名	訪問看護ステーションの運営																							
事業内容	<p>今年度は「桜の森白子ホーム」の訪問看護ステーションとして2年目となり、昨年度以上の利用者獲得ができるように営業活動に取り組んだ。</p> <p>鈴鹿市内の居宅介護支援事業所や北部・南部・中部・西部4つの地域包括支援センターのケアマネジャーへの営業。鈴鹿中央総合病院、鈴鹿回生病院、三重大学病院、藤田保健衛生大学七栗記念病院、三重県立総合医療センター、小山田温泉記念病院の医療ソーシャルワーカーへの営業。鈴鹿市内の医院への営業をローテーションして行なった。</p> <p>当法人の居宅介護支援事業所のケアマネジャー、デイサービスセンター、ショートステイの相談員とも連携をとって利用者の情報を共有し、利用者の獲得につなげるようにした。</p> <p>また、リハビリのニーズに応えられるように作業療法士を1名採用し、訪問看護件数の増加を見込み土曜、日曜の対応、24時間体制の強化の為看護師も1名増員した。しかし、ケアマネジャーからの紹介件数が思うように伸びず、入院、入所、死去で利用中止となるケースもあり当初の計画通りに利用者人数を増やすことができなかった。</p> <p>結果として、赤字運営の状況を脱することができなかった。今年度の課題点を分析し、来年度で黒字運営ができるようにしていく。</p>																							
	<p>平成30年度利用者数</p> <table border="1"> <tr> <td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td> </tr> <tr> <td>11人</td><td>12人</td><td>15人</td><td>13人</td><td>17人</td><td>19人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td> </tr> <tr> <td>16人</td><td>18人</td><td>22人</td><td>19人</td><td>23人</td><td>23人</td> </tr> </table>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	11人	12人	15人	13人	17人	19人	10月	11月	12月	1月	2月	3月	16人	18人	22人	19人	23人
4月	5月	6月	7月	8月	9月																			
11人	12人	15人	13人	17人	19人																			
10月	11月	12月	1月	2月	3月																			
16人	18人	22人	19人	23人	23人																			

公益事業の運営																								
事業名	居宅介護支援事業所の運営																							
事業内容	<p>今年度は「桜の森白子ホーム」の居宅介護支援事業所として2年目となり、昨年度取り組んだ営業活動により事業所の存在を知ってもらえるようになってきた。鈴鹿市内の北部・南部・中部・西部4つの地域包括支援センターのケアマネジャーからの紹介があるようになり、特に同じ地域を担当する南部と中部地域包括支援センターからは何人もの利用者の紹介があった。</p> <p>また、当法人のデイサービスセンター、ショートステイの相談員とも連携をとり、利用者の情報共有を行い、担当ケアマネジャーがいない利用者については当居宅介護支援事業所のケアマネジャーで担当することにつなげることができた。</p> <p>鈴鹿中央総合病院、塩川病院等の医療ソーシャルワーカーからも利用者の紹介があった。</p> <p>当事業所の体制についても、今後の事業所運営を考え実務経験のあるケアマネジャーを1名採用し4名体制とし、特定事業所加算（Ⅱ）400単位/1ケースを算定できる事業所となった。</p> <p>また、加算算定についても、初回加算300単位、入院時情報連携加算200単位、退院・退所加算600単位を積極的に算定を行なった。今後は担当する利用者にターミナルの方が出てくればターミナルマネジメント加算400単位を算定できるように取り組む。</p> <p>結果として、担当利用者人数は当初計画に対して83%の達成率となった。</p>																							
	<p>平成30年度利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35人</td> <td>34人</td> <td>40人</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>50人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>51人</td> <td>53人</td> <td>54人</td> <td>58人</td> <td>57人</td> <td>60人</td> </tr> </tbody> </table>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	35人	34人	40人	45人	45人	50人	10月	11月	12月	1月	2月	3月	51人	53人	54人	58人	57人
4月	5月	6月	7月	8月	9月																			
35人	34人	40人	45人	45人	50人																			
10月	11月	12月	1月	2月	3月																			
51人	53人	54人	58人	57人	60人																			

事業名	各種委員会活動
事業内容	<p>・各種委員会では多様化する利用者の方々のニーズを的確に把握し、いかに対応するか議論を重ねます。社会情勢も目まぐるしい早さで変化を続け、施設の在り方やサービスも必然的に変化をしていきます。どうニーズを把握し、時代に合ったサービスの在り方を具体化していくかを話し合う事を目的としています。法人内部での委員会は、4年目に入り各委員会の内容も充実してきており、委員会主催で、職員の講師による内部研修も実施できるようになり、職員の質も上がった。</p> <p>法人人事委員会 法人理念、法人人事理念を通じて、施設の安定的な運営およびサービス向上のための人材育成に積極的に取り組み、職員のやりがいや仕事を通じた満足度および定着率の向上につなげていくための活動を行う。</p> <p>感染対策委員会 入居者・利用者様、職員の生活空間の環境を整える。感染症の流行の把握に努め、標準予防策の徹底に向けて、研修や事例を通して個々の知識を深め、当たり前のことが当たり前に実践できるように整えつつ、皆様が健康に過ごせるような活動を行う。</p> <p>事故防止及び身体拘束廃止委員会 介護・医療事故を防止し、安全かつ適切に、質の高い介護・医療を提供する体制を確立するための活動を行う。</p> <p>行事・給食委員会 季節に応じた行事を企画運営し、入居者・利用者様はもちろん地域の方々に対して楽しんでいただける各種行事になるような活動を行う。 利用者様・入居者様に安心・安全に楽しんで食事していただける事を目標に活動を行う。</p> <p>衛生委員会 産業医、衛生管理者、看護師、栄養士、職員代表等が、お互いの立場の枠を超え、事業場における労働災害防止や健康管理の方向を定め、その推進を図るための活動を行う。</p> <p>褥瘡予防委員会 入居者・利用者の身体の状態や栄養、皮膚の状態を観察し褥瘡のリスクを検討しつつ、個々の状況に応じた対策を行い褥瘡の予防に努める活動を行う。</p>

